

28 栗生共同墓地(クリオキョウドウボチ)



指定 平成3年3月31日 町指定有形民俗文化財
所在地 栗生
管理者 屋久島町

現在、全国において、地域の領主・豪族または由緒ある家柄の墓地を除き、庶民の共同墓地は急速に姿を消しつつあります。屋久島でも昭和51年以降、土葬から火葬に移行するに従いほとんどの集落で、従米の墓地を新しい火葬時代の納骨堂式に改修するために、古い墓石を解体し土中に埋めるなどしたため、往時の共同墓地の姿はあまりみられません。

栗生共同墓地には、元禄時代(1688年)から今日にいたる約300年間の土葬時代における墓石が1000基以上あります。栗生住民、流人、藩政時代の役人、寺の歴代住職等の墓石は、種類も豊富で、祠堂型墓石、五輪塔も数多く宝篋印塔(ほうきょういんとう)も確認されています。

栗生共同墓地の特質として、他の集落と比較して、姓の書かれた墓石・形状の大きな特殊な墓石が多くみられます。そのため、時代ごとの墓石の質や形状をはじめ、宗教の沿革、各家や地域の歴史・経済の動向を推測することができ、歴史資料の少ない本町においては、歴史解明の手がかりとして大変貴重な文化財といえます。